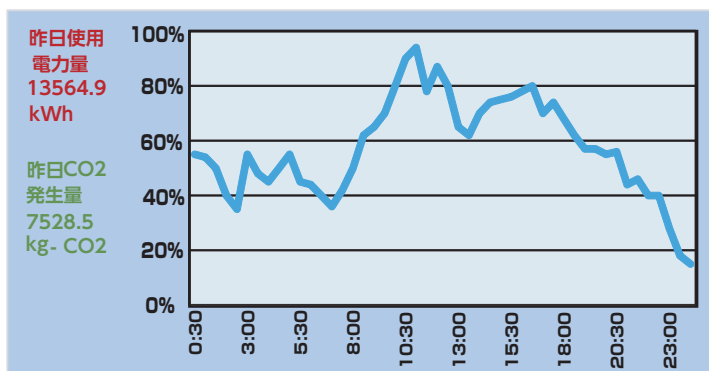


デマンド監視システム

デマンド監視システム・デマンドコントローラーは高圧受電において電気を見える化し、契約電力を一定以下に保つことで省エネが可能なシステムです。

あらかじめ設定したデマンド値を超えそうになると、警報が発します。工場では夏場のピークを迎える時間帯の14:00～15:30では各職場の空調設定を1℃上げています。また昼休みは職場ごとの時間差休憩により電力のピーク(デマンド値)をなだらかに保っています。

24時間の電力の推移を監視



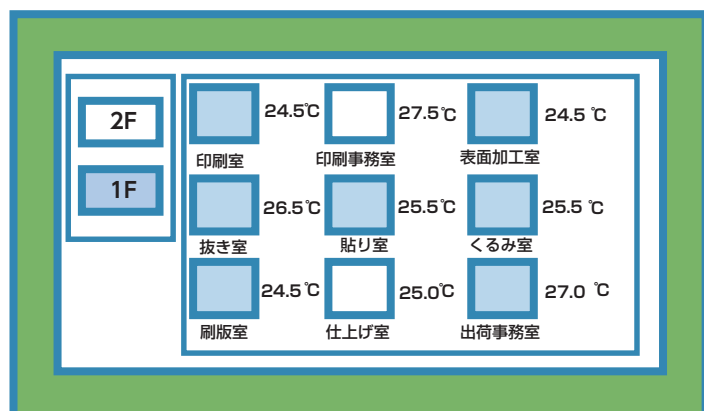
目標電力を達成するための施策を行い、日々の消費電力はCO₂発生量としても確認できます。

「見える化」による節電対策

電力の使用状況をモニタリングすることで、電気使用のムリ・ムダの発見ができます。

「見える化」することで過去の電気使用量が把握できるので即効性のある細やかな対応が可能になり、何より従業員への省エネの意識づけができます。しかし、過度な制御は業務効率を下げたり、場合によっては健康被害を引き起こす可能性もあります。最適な目標設定を集中的に管理し、省エネとコストダウンを実現することが目標です。

2016年使用電力量削減目標値はCO₂換算で184.4t



モニタリング画面

生物多様性 について学んでみよう。

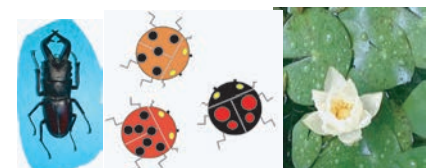
生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの命は一つひとつに個性があり、全て直接的、間接的に支えあって生きています。

3つの多様性レベル

森や山、川や海、草原や湿原などいろいろな生態系の多様性、動物や植物、微生物などいろんな生き物が生息・生育している種の多様性、同じ種類でも様々な個性をもっている遺伝子の多様性があります。



生物多様性は、私たちの暮らしに多くの恵みを与えてくれています。今、その生物多様性が急激に損なわれているのです。人間活動や開発、乱獲、里山の荒廃、外来種や化学物質など人の持ち込みで在来の生きものが暮らせなくなり、その上、地球温暖化により生態系が壊されています。



危機を解決する4つの基本戦略

- 1.社会に浸透させる。生物多様性についての教育や学習の推進。
- 2.人と自然の関係を再構築する。里山の保全・再生活動。
- 3.森・里・川・海のつながりを確保する。
- 4.地球規模の視野をもって行動する。COP10

(環境省 みんなで守る生物多様性より)

JS環境委員会短信

2010年名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されました。ロゴマークは折り紙で作られた多様な動植物を画き、スローガンは「いのちの共生を、未来へ」とし、この星の豊かな生物多様性を次の世代に引き継いでいこうと決意を表しています。

島田PC環境委員

委員長：山本洋和

委員：岩本里 曾根秀樹 青島雄之 山本康二

増田真也 久保野正美

事務局：西村吉昭